オリンピックスポーツ文化研究
2022. 6　No. 7　173 ― 174

東京 2020 大会と日本体育大学

東京パラリンピック活動報告書（パラ卓球）

友　野　有　理（スポーツ文化学部スポーツ国際学科３年／パラ卓球・日本代表）

冒頭にパラ卓球のクラス分けについて紹介をしよう．簡単に言うと，男女ともクラス１～５が車椅子，クラス６～10 が立位，クラス 11 が知的障害である．それぞれのクラスの中でも，数字が低くなるにつれて障害の度合いが重くなる．私はクラス８に所属をしている．

東京パラリンピックへの出場内定が決まったのは，大会が開催される２ヵ月前のことだった．その基準はクラス８の場合，５大陸選手権優勝者５名，５大陸選手権優勝者を除く世界ランク上位１名の計６名であった．しかし，東京パラリンピックは女子団体のクラス別を採用した初の大会ということもあり，女子の全クラスから最大４名まで団体戦枠が設けられた．ラッキーなことに，自分が最後の最後で団体戦枠に入り，団体戦枠に入ると個人戦にも参加できるため２種目に出場することができた．このことは，パラ卓球国際連盟の公式サイトで知った．どれだけの実力がついたのかを試してみる絶好の機会が与えられ，しばらく興奮が収まらなかった．

東京パラリンピックに出場してみて実際に感じたことは，普段の国際大会と比べて全く環境が違っていたことだった．通常の大会とは異なる総合競技大会なので，より多くの国の人たちと交流できるのではと期待した．大会終了後には，お別れパーティーを開く国も見られた．そのいっぽうで，自分の試合終了後 48 時間以内には選手村を退村しないといけないルールがあった．

ボランティアの人たちは幅広い年齢層で，一歩部屋を出るといたるところにいた．その数だけでも国際大会とは比にならないほど多かった．

また大会だけでなく，散髪やネイル，ダーツ，ゲームセンターで見られるゲームや電動式マッサージも，全部無料で利用することができた．車椅子修理サービスや ATM，郵便サービスも完備されていた．

大会期間中，テレビや SNS など複数のメディアが入った．また現地ボランティアに携わっていた人や移動中に出会った子どもたちなど，沢山の方から，頑張って下さいと応援を受けた．さらに大会後海外からファンレターを頂いたことなどから，人々の関心の高さが伺われた．

卓球は開会式の翌日から試合が開始され，３～４日間のスケジュールで全試合が行われた．

卓球会場でのボランティアはおもにボールボーイ，ボールガール，卓球台を拭く人がついていた．

初戦，相手は中国の MaoJingdian 選手であり，2016 年から現在まで世界ランキング１位をキープしている選手である．相手はこれまでロンドン大会・リオ大会ともに優勝してきた選手であり，今回３連覇を目指している選手だった．初戦で相手も緊張していると考え，自分から攻めて相手を混乱させようという作戦でいった．しかし，自分も緊張してしまい思うようにプレーできなかった．１，２セット目は自分の思うプレーができず落としてしまったが，３セット目はプレーを変えてリードすることができた．奮闘したものの，最後は相手に追い上げられ１セットも取れずに終わってしまった．しかし心は沈んではいなかった．向かっていこうという気持ちが強かったため，ド

ライブやスマッシュのオーバーミスが目立ち，負けてしまった．これは実力不足からで，次につながる課題と思い次の試合に向けて準備した．

気持ちを切り替え２回戦，ドイツの Wolf Juliane 選手と対戦した．この試合は３－２で勝利した．序盤何度かラリーは続いたものの，自分からの攻撃でミスが目立ってしまった．０－２で負けていたが以前この選手と対戦した時は３－２で勝利しており，相手の苦手なポイントや不得意なコースを理解した上で徹底的にそこを狙った．自分のできる技術を活かし，フルセットまで持ち込ませた．サーブからの３球目，またどんな球が返球されてくるか把握できた上で，得意のサーブを出し，鋭いツッツキで得点することで勝ちに繋げた．

私のクラスは９名の参加で，予選トーナメント２位上がりで準々決勝に進んだ．

準々決勝では，2019 年のアジア選手権で１度対戦したことがある Huang Wenjuan 選手と対戦した．対戦するのはこれが２回目であった．Huang Wenjuan 選手は 13 歳で国際大会デビューを果たし，東京パラリンピックまでに出場した大会は４大会しかない．しかも，いずれもかなりレベルの高い大会である．彗星のごとく現れ，飛ぶ鳥を落とす勢いで，格上選手に勝利し，今勢いのある選手である．前回対戦した時は，自分は 19 歳，彼女は 14 歳であった．16 歳になって身長が伸び，160 センチの自分を超えていた．その時は，相手のサーブを自分が取れなくて終わってしまったが，前回以上にラリーが続いたので以前より成長できたと感じることができた．相手のナックルや下回転の変化に対応できず，球が浮いてしまい，ほぼフォアミドルに返され，その球を返すことができずに終わってしまった．しかし気持ちの面では強気で向かっていくことができ，課題が分かって悔しさよりも次につながる収穫の方が大きかった．５位入賞で私の東京パラリンピックのシングルスは終わった．

気持ちを切り替え，次の団体戦に目を向けた．クラス９～10 に出場した．どの大会でもそうだが，クラスが下の選手でも団体戦パートナーの関係上，上のクラスに出ることは問題ない．東京大会のクラス９～10 は，８か国が参加した．今回は，参加国が少ないため，トーナメント方式となった．

１回戦は前回リオ大会で優勝したポーランドと対戦した．ダブルスは，相手が誰であれ，向かっていく気持ちで臨んだ．健常者の卓球から考えると，右利きの選手が多い印象が強いが，自分たちはラケットハンドが左利きと左利きであり，相手も左利きと左利きで，全員が左利きという異例な光景になった．シングルスはパートナーの選手が出場し，結果は０－３で敗北した．初戦敗退となったが，女子の人数が少なく５位入賞といった結果となった．

東京パラリンピックではまだなかったが，今年度の世界選手権から団体戦を廃止し，ミックスダブルス，女子ダブルス，男子ダブルスが新たに始まる予定である．

新型コロナウイルス感染症の影響で，パリパラリンピックが開催されるかどうかは現時点では定かではない．当然スポーツが優先の世の中ではない．それでも今回，沢山の方から応援メッセージを頂いたり，温かい言葉をかけていただいた．本当に沢山の方の支えがあって，今自分はここに立つことができているのだと強く感じた．感謝の気持ちを持ちながら，２年後のパリ大会があると想定し，しっかりと勝ちに行くための準備をしていきたい．

写真　日本財団からの応援メッセージ

（受理日：2022 年２月３日）